栗山町開拓記念館

広報　アノロ

第118号
令和8年11月1日

執筆者：栗山町開拓記念館　研究員 青木 隆夫

発行：栗山町教育委員会

栗山の北大農場と「成墾紀念碑」
～栗山に残る札幌農学校の残影～

■ はじめに

今年、北海道大学（北大）の 前身となる札幌農学校が、1876年（明治9）の開校から150年（創基150年）を迎えました。札幌農学校からの歴史の中では、この間の栗山町との関わりも深くあったところです。

1893年（明治26）に札幌農学校を卒業しその後、栗山に移住した北海道農会の伊藤廣幾や、村上儀助、小島小治郎、周田順信など、栗山の草創期に名を残す札幌農学校農芸伝習科の卒業生たち、さらに栗山に第5農場（北学田）と第6農場（南学田）が設けられた農学校附属農場と、その経営の中心を担った北大の初代総長佐藤昌介や、二代目総長だった南鷹次郎など、栗山と北大との歴史の中に、その名が刻まれています。

ここでは、その北大農場の記憶を残す、南学田と北学田に建てられた農業開発の記念碑「成墾紀念碑」について触れ、栗山での北大農場の歴史の記憶を資料などから辿ってみることとしました。

尚、記念碑の「成墾」とは予定した農地の開墾が完了(終了)を指す意味の言葉です。

１．北大初代総長佐藤昌介と栗山

栗山町開拓記念館前にある1918年（大正7）に建てられた「開村（30周年）記念碑」の撰文と、1909年（明治42）、北学田神社、南学田神社に建立された「成墾紀念碑」の題額、同年、方田寺「福井正之頌徳碑」の撰文など、栗山町内には比較的多くの当時東北帝国大学農科大学の学長であった佐藤昌介の撰文や、題字などが残されています。東北帝国大学農科大学は札幌農学校の後身で、1918年（大正7）まで、この名称が使われていました。札幌農学校は1907 年（明治40）に東北帝国大学農科大学と校名が変わり、1918年（大正7）には北海道帝国大学となって、初代の総長に佐藤昌介が就任しています。　戦後には新制の現在の北海道大学となりましたが、草創期から功績から「北大の父」とも称された人物でした。

（南学田神社の「成墾紀念碑」）

その佐藤昌介は岩手県に生まれ、札幌農学校の一期生として入学しています。因みに二期生で旧券の5千円札の肖像にもなった新渡戸稲造や、戦前に栗山から衆議院議員に当選した伊藤廣幾も、同じ岩手県の出身で農学校の卒業生でした。

（北海道大学構内の佐藤昌介胸像）

南学田・北学田の碑に「成墾紀念碑」の題字を揮毫した南鷹次郎も札幌農学校の二期生で、北海道帝国大学の農学部長を歴任し、その後、佐藤昌介の後を受けて二代目の総長となっています。

そもそも、札幌農学校が北海道内に広大な附属農場を設置したのは、佐藤昌介の大学経営のための建議によるものでした。

２．札幌農学校の校名と所管の変遷

・開拓使仮学校・女学校
　1872年（明治5）～
・開拓使札幌学校
　1875年（明治8）～
　開拓使女学校廃校　1876年（明治9）～
・札幌農学校　1876年（明治9）～
　農商務省　1882年（明治15）～
　北海道事業管理局　1883年（明治16）
　北海道庁（総理大臣直下）
　1886年（明治19）→
　内務省　1890年（明治23）～

文部省　　1895年（明治28）
・東北帝国大学札幌農科大学
文部省　　1907年（明治40）～
・北海道帝国大学 文部省
1918年（大正7）～
・北海道大学　文部省
1947年（昭和22）～

3．北海道内の北大附属農場

札幌農学校が学校農場（附属農場）を設けたのは、試験農場、小作農場として区分された次の道内8か所の農場と、余市の果樹園でした。

・第1農場　札幌市（北大学内）
・第2農場　札幌市（北大学内）
（※第1、2農場は研究農場）
・第3農場　札幌市篠路（烈々布農場）
・第4農場　札幌市簾舞（豊滝農場）
・第5農場　栗山町北学田（雨煙別学田）
・第6農場　栗山町南学田（阿野呂学田）
・第7農場　七飯町
・第8農場　富良野学田
（富良野農場・山部農場）
・余市果樹園

この内、「第1農場と余市果樹園は、主として学生生徒の実習、各種の試験、標本作物・家畜の栽培飼育に供し、第2農場は欧米の農業法にのっとり混同農業を実施して本道農業の研究を行い、第3以下第8に至る各農場は、もっぱら“土地貸下規定”により小作経営をすることを目的とした。そこで農場は経営方式によって直営と小作経営に分けられ、さらに経営目的によって前者は実験農場（第1農場・果樹園）と経済農場（第2農場・第3農場の一部）、後者は小作農場（第3～第8農場・第1農場の一部）に区分」（『北大百年史〈通説〉』1982年）とされていました。

4．栗山町の大学附属農場（学田）

（1）栗山での附属農場の沿革

・1888年（明治21）夕張川右岸400余万坪（1,400町歩）交付申請
・1890年（明治23）4月　予定地を2か所に分割し北海道庁より「夕張学田」として交付
・1892年（明治25）　区画測量実施
・1895年（明治28）小作人を募集入地
夕張学田の雨煙別学田を第5農場（北学田）、阿野呂学田を第6農場（南学田）に分割
・1909年（明治42）7月7日　北学田・南学田で成墾記念式開催。「記念碑」建立
・1896年（明治29）第5農場看守所（事務所）設置
・1897年（明治30）第6農場看守所（事務所）設置

（第5、第6農場看板）

（2）第5農場（北学田）の沿革
（名称：雨煙別学田・角田北学田・北学田）

・1892年（明治25）　雨煙別学田区画測量実施
・1895年（明治28）　小作人を入地
・1897年（明治30）　看守所（事務所）設置
・1909年（明治42）7月7日　成墾記念式開催「成墾紀念碑」建立
・1928年（昭和3）「鈴木九重頌徳碑」建立式
・1935年（昭和10）成墾25周年北大総長高岡熊雄9月来場

（成墾紀念式を伝える新聞記事）

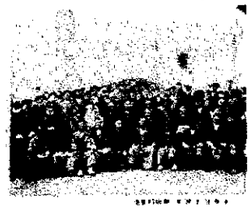
・2025年（令和7）成墾記念碑と、鈴木九重頌徳碑の解体

（3）第6農場（南学田）の沿革
（名称：阿野呂学田・角田南学田・南学田）

・1890年（明治23　阿野呂学田　未開地713町4段４畝2歩
・1892年（明治25）阿野呂学田区画測量実施
・1894年（明治27）入地希望者に許可
・1895年（明治28）土地貸下げ規定で小作別により開墾着手　区画設定
小区画5町歩　大区画30町歩
300間ごとに道路敷地
27戸の小作者収容
・1896年（明治29）看守所設置　道路・水溝・橋梁設置
小作者鍬下3年は小作料無料、翌年から徴収
・1898年（明治31）　小作者88戸
・1903年（明治36）　貸下げ完了
・1909年（明治42）7月7日
成墾記念式開催「成墾紀念碑」建立

5.「成墾記念碑」の建立

『北大百年史一部局史・農学部・付属施設』では成墾記念碑の建立について、「従来、小作農場と呼称されていた角田南及び北農場は、1895年（明治28）に開場された。その当時は人跡未踏の原始林であったが、入植者が増加し、しだいに開拓が進展するに伴い札幌農学校は適作物の耕種肥培管理の方法を指導し、


（明治42年南学田の成墾紀念式）

農業経営の安定に努めた結果、1909年（明治42）には、いずれの農場でも新地の開墾がほとんど完了した。

そこで耕作者はそれぞれ所属の農場に成墾記念碑を建立し、成墾を祝った。その後、満25年を経た1935年（昭和10）には記念式典を挙げ、成墾25周年記念刊行物を発刊するに至った。小作農場は北海道における農学発展史において、きわめて貴重な学術的意義をもっていた」と記念碑が建立された経緯などが記されています。

その「成墾25周年記念刊行物」というのは、記念式の翌年の1936年（昭和11）に発刊された「北海道帝国大学農学部附属”小作農場事業概要”」でした。

その序文には、「本学農学部が東北帝国大学たりし時の明治42年、其所属小作農場の新地開墾殆んど成りたるを以て、各農場の小作人等は成墾記念碑を各自の農場に建立し之を大学に寄附し、大学は小作人を碑前に会し記念の式典を挙げ、且つ小作農場の事績を録し、東北帝国大学農科大学農場成績報告と題し之を刊行し」（『北海道帝国大学農学部附属”小作農場事業概要”』1936年）と、碑石に刻まれた「借地人一同」がこの碑を「大学に寄附」したものとされています。

6．栗山の「成墾紀念碑」碑文内容

（1）北学田「成墾紀念碑」
題額「精農成業」農学博士 佐藤昌介
題字「成墾紀念碑」農学博士 南鷹次郎書
■（碑裏面）
此為東北帝国大学農科大學第五農場凡三百六町餘明治二十三年五月為　札幌農學校所管稱雨煙別學田其地舊属空知郡栗澤村三十九年四月更入　夕張郡角田村始充学生演習場経営耕牧業二十八年改布小作制度招徠農民三十年置看守処爾来入場者漸多四十年九月為農科大學所管今茲墾闢告成有小作者八十一人其耕地三百八十九町餘於是象胥謀醸金樹碑以為成墾記念若夫創業之難既往矣顧守成亦不易宜有所益盡其力也
農学士 伊藤廣幾 識 明治四十二年四月建之
（碑裏面下部台座）借地人一同　寄附

（2）南学田「成墾紀念碑」
題額「後昆頼慶」農学博士 佐藤昌介
題字「成墾紀念碑」農学博士 南鷹次郎書
■（碑裏面）
此為東北帝国大学農科大學第六農場凡六百十三町餘明治二十三年五月為札幌農學校所管稱阿野呂學田其地舊属夕張郡登川村三十年七月更入夕張郡角田村當時道路未通経営極艱二十八年布小作制度招徠農民明年置看守（南学田の成墾記念碑）所爾後諸般設備漸成入場者逐年加多四十年九月為農科大學所管今茲墾闢告成有小作者百三十三戸其耕地六百六十五町餘於是衆胥謀醸金樹碑以為成墾記念若夫創業之難既往矣顧守成亦不易宜有所益盡其力也
農学士 伊藤廣幾 識 明治四十二年四月建之
（碑裏面下部台座）借地人一同　寄附

上記の碑文の内容は北学田・南学田ともに、農場面積や小作者・戸数などの違いはあるものの、ほぼ同様の内容となっています。大きく異なるのは農場名や題額の四文字にその違いがあります。

例えば、北学田の碑文内容には「雨煙別學田其地舊属空知郡栗澤村三十九年四月更入」と農場設立当時は「雨煙別学田」と呼ばれていたこと。当時農場所在地が空知郡栗沢村（現在は岩見沢市）であったことなど。

また、南学田の碑文には、農場設立当時は「阿野呂学田」と呼ばれ、所在地が夕張郡登川村（現在の夕張市）であったことが記され、栗山町の明治期の行政区域の変遷も窺うことができます。

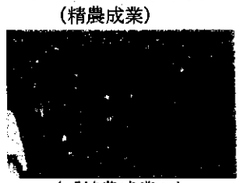
7．題額の四文字

―各農場に向けた佐藤昌介のメッセージ

南学田の碑の題額に記された「後昆頼慶」、「後世の人々が先人の、（開墾の功績により）幸福を得るであろう」の意味です。

（精農成業）

また、北学田の成墾記念碑の題額に記された「精農成業」は、「精魂込めて農業に打ち込み、それによって


（「精農成業」）

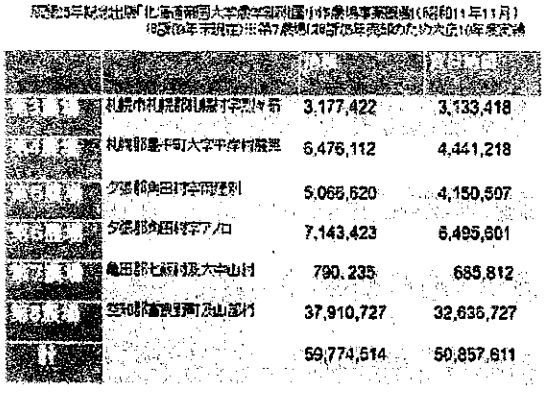
事業を成功させ、農業を確固たる生業として確立する」ことの意味となります。ともに佐藤昌介が成墾後の各農場の発展に期待し、贈った言葉であり、道内にあった各農場の記念碑それぞれにも、異なった次の四文字のメッセージが寄せられていました。

・第3農場（篠路）　明治42年6月建立
　「榮業所基（えいぎょうしょき）」
・第4農場（簾舞）　明治42年7月建立
　「嘉禾是豊（かかしほう）」
・第5農場（北学田）明治42年4月建立
　「精農成業（せいのうせいぎょう）」
・第6農場（南学田）明治42年4月建立
　「後昆頼慶（こうこんらいけい）」
・第7農場（七飯）　大正4年7月建立
　「務茲稼穡（むしかしょく）」
・第8農場（富良野）明治42年5月建立
　「沃穣嘉穀（よくじょうかこく）」
　（山部）　明治42年6月建立
　「治産務本（ちさんむほん）」

成墾紀念碑は第3～第8農場の小作（経済）の7個所に建てられたもので、題額の四文字が刻まれたのもその場所です。

いずれも、この四文字に込めた農場が置かれた地域と農民に向けての、大学が目指した北海道農業への大いなる「期待」と「激励」が込められた意味を含んだ言葉で、それぞれの農場は、それに応えた成果として、今日の姿につながっているようです。

農場所在地積及貸付地積



		3,177,422	3,133,418
		6,476,112	4,441,218
		5,066,620	4,150,507
		7,143,423	6,495,601
		790.235	685,812
		37,910,727	32,636,727
		59,774,514	50,857,611

※第1、第2農場は研究農場で、小作農場と異なり農地解放の対象ともならず、現在も北大構内の敷地にあるために、「成墾紀念碑」は建立されていません。

第3～6農場と第8農場の成墾記念式は1909年（明治42）に一斉に行われましたが、七飯町にあった第7農場は、他の農場に遅れて1915年（大正4）に成墾し、その際に記念碑が建立されています。

■ おわりに

このように、栗山の農業と地域の開発には明治期以来の北海道大学との深いつながりがありました。1909年（明治42）に栗山を訪問した新渡戸稲造や、有島武郎との親交の深かった森本厚吉、帝国製麻の技師から重役となった平塚直治なども栗山を訪れた記録が残されています。

現在も北海道大学農学部の地域研修が実施され、毎年、多くの学生や教員たちが訪れています。単に大学農場が設置されただけではなく、卒業生たちの入植や、教育施設の支援や用水設備などの整備、農業組合の創設など、地域の形成や、農業技術の普及面でも栗山の地域の中に大きな痕跡を残していました。

今回、「成墾記念碑」の「記念」を「紀念」としていますが、これは碑文のまま使用したもので、どちらも意味合い的な違いはありません。

<参考文献>

・『郷土誌北学田』1982年
・『南学田部落史』1979年
・『北大百年史＜通説＞』1982年
・『北大百年史〈部局史・農学部・付属施設〉』1982年
・『北海道帝国大学農学部附属“小作農場事業概要”』1936年
・『栗山町史』1971年
・『北海タイムス』1909年7月7日

栗山町開拓記念館
企画展「時の記念日」を考える
～おじいさんの古時計～
令和8年（2026）5月26日～6月21日
企画展「軍隊漫画絵はがき」資料に
81年前の日常を見る
令和8年（2026）9月1日～10月31日
新たな収集・寄贈・展示資料
・「栗山全図」「栗山市街図」「人名録」等
・「石器（黒曜石）」等（寄贈）
・「北海道植物新書2026」（寄贈）
・「円山小学校教材 解剖顕微鏡」
・「蒸し竈」（収集・展示）
・「ユンハンス社製 柱時計」（寄贈・展示）
・「長澤式平面米選機」（収集・展示）

栗山町開拓記念館では栗山の歴史や産業・文化に関係する地域の資・史料を収集しています。何かお気づきのものなどがあればご連絡ください。
（℡0123･72･6035）　栗山町開拓記念館